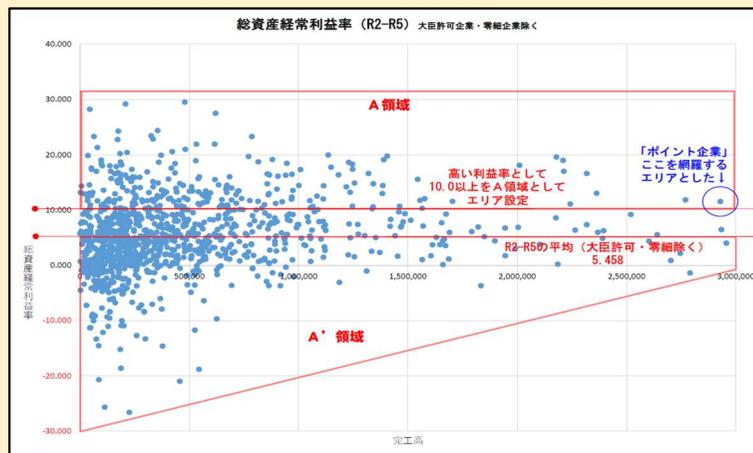




①企業の経営力強化の支援（WG1奥本委員）

代表指標である「総資産経常利益率」だけでなく、経営状況に影響を与えている要因を分析する必要がある。
(R6.3協議会意見)

個社の総資産経常利益率経年変化や各経営指標の関係性をグラフ化し、傾向分析しながら議論を重ねた。



令和7年度の取組

ポジティブなA領域とネガティブなA'領域の企業を抽出し、各経営指標の分析を試みる。

取組の方向性

ポジティブな領域に位置する優良企業からグッドプラクティス※を見出し、ネガティブな領域に位置する企業へ伝えていくことで、バッドプラクティスを是正し、建設業の底上げに繋げていくことで経営力強化に繋げる

※グッドプラクティスとは、優れた取組や手法

②建設DX推進による生産性向上（WG3中村委員）

電子納品保管管理システム

現在の電子納品保管管理システムは、データの登録や検索に膨大な手間と時間を要することから、登録方法やデータの公開などシステムを改修し、他システム（国土交通省データプラットフォーム）へ連携を図る必要がある。

令和7年度の取組
測量設計業協会などの業界団体に意見照会を行いながらシステム改修を行う。

橋梁維持管理支援システム

補修設計や工事の成果物の保管場所が不明確なことや、国のデータベース登録に時間を要している等の課題に対応するため、橋梁の維持管理データ（定期点検、補修設計、補修工事）と連動し橋梁の維持管理を支援するシステムを試行導入した。

令和7年度の取組
データベースとの連携について関係課と調整を行う。

公共土木施設のデータベース構築

建設産業における業務の省力化、効率化、高度化を図り、働き方改革を進め、生産性の向上や長時間労働の是正、担い手の確保に繋がるとともに、データの有効活用により、品質向上や長寿命化、ライフサイクルコストの最小化を図っていく必要がある。

令和7年度の取組
公共土木施設データベース構築に着手
(参考資料編P1～)

建設業のバックオフィス環境整備

建設業を取り巻く環境は、働き方改革による長時間労働の上限規制などの背景から、現場技術者が日中から夜間の時間外にかけて様々な業務を行う必要があり、業務を分担するバックオフィスの導入を促進する必要がある。

令和7年度の取組
建設業バックオフィス環境整備事業に着手
(参考資料編P2～)



基本目標Ⅱ『担い手の確保・育成』について

福島県建設業産学官連携協議会
令和7年3月21日（金）

担い手確保・育成（WG2芥川委員、中村委員、奥本委員）

担い手の確保・育成の取り組み状況（令和6年度実績）

小学生

- ・建設業に触れてもらうため現場見学会（8回）や絵画コンクールを実施しました
- ・キッズニアへ出展しました



▲絵画コンクール



▲保護者からは建設業に対する好意的な意見が寄せられた

中学生

- ・教育庁義務教育課、福島市教育委員会、市内中学校へ職場体験に関する話を伺いました
- ・建設企業での職場体験受入に向け、福島市教育委員会へ受入先一覧を提供しました

高校生

- ・進路選定時に建設業を考えてもらえるよう、現場見学会（16回）や座談会等（11回）を実施し、建設業のやりがいや魅力について発信しました
- ・ふくしまMEスチューデントコースを開講し、将来の技術者育成に取り組みました



▲ふくしまMEスチューデントコース 講師：日本大学工学部 中村氏



▲座談会や説明会では給料や休暇に関する疑問や資格取得に関する質問が出された

大学生

- ・建設業での女性活躍に向け、郡山女子大学（生活科学科建築デザイン専攻）が現場見学会を実施しました



▲安積中高一貫校の建築現場

就業者

- ・研修会（5回）を開催し建設業での基礎知識等の習得に取り組みました
- ・ふくしまME講習会を実施し、インフラメンテナンスに携わる方の技術力研鑽に取り組みました



▲新入社員合同研修



▲ふくしまME講習会

一般向け

- ・道の駅ふくしまで各種イベント（8月～1月）を実施し、幅広い世代の方に建設業を理解してもらえるよう広報活動を実施しました



重機の試乗体験などでは長蛇の列ができるほど大盛況



▲工業系高校現場見学会



写真部 現場見学会

ふくしま建設業魅力発信ポータルサイトの制作



▲建設業に関する情報や動画を集約（ワンストップ）し、分かりやすい情報発信のためポータルサイトを制作しました

建設業PR動画の制作



▲各年代毎の動画を制作し、建設業の魅力をPRするとともにYouTube、ポータルサイトに掲載し情報発信に取り組みました

動画制作講習会の開催



▲動画制作を身近に感じてもらう、更なる情報発信につながるようタブレット等を使用した動画制作、編集の講習会を開催しました
講師：東京大学特任研究員 熊田氏

写真展「雪と闘った建設業」



令和7年2月の大雪に伴う建設業の活動について、写真展を開催することにより建設業の役割や魅力等を発信しました。
3/18～県立図書館
3/24～県庁内連絡通路
道の駅あいづ湯川・会津坂下（調整中）

令和7年度の取り組みについて

小学生～大学生について

- ・各現場見学会や座談会等について、取り組みを継続する
- ・中学生の職場体験学習で建設業の受入拡大方を検討する
- ・建設系学科を有する高校や大学等との座談会実施や開催校の拡大に取り組む
- ・ふくしまMEスチューデントコースの開催校の拡大に取り組む
- ・ものづくりの楽しさを伝える動画制作を継続する

就業者、一般向け

- ・研修会や講習会について、取り組みを継続する
- ・転職（キャリアチェンジ、U I Jターン）を希望する方に向けた取り組みとして転職者へのインタビュー動画を制作する
- ・ポータルサイトの継続周知やサイト内の更なる情報充実に努める
- ・県内施設でのイベント開催方法や内容を検討する（資料編P3）



基本目標Ⅲ「地域の守り手としての役割を持続的に担うことのできる環境づくり」

福島県建設業産学官連携協議会
令和7年3月21日（金）

① 包括的維持管理の深化・拡充

包括維持管理の深化（WG3中村委員）

○MMRや性能規定の深化に向けて

（宮下地区へヒアリングを実施）

- ・ MMRの業務は性能規定計画書、住民要望、除草モニタリング等多岐にわたり、人材確保の点で技術者不足が懸念
 - ・ 性能規定の導入は、従前の仕様規定（出来型を求める）の違いを住民へ説明し理解を得る必要がある。
 - ・ 作業に自由度（除草方法）があり、効率化を図るため利益が出ている。
- また、地元アンケートで適切性について従前との比較した結果肯定的な意見が増加していることが確認された。

➢ MMRと性能規定は両輪で実施し、併せて受注者側の技術者確保を行いながら段階的な導入を目指す。

～委員意見～

- ・ MMRの導入による発注者側のメリットを確認。
- ・ 性能規定実施にあたっての要求水準の考え方を整理。

令和7年度の取組

秋田県大館市においては、道路・河川・公園の維持管理業務を性能規定で実施しており、要求水準やMMRの資質、発注者側のメリットについてヒアリングを実施する。

包括維持管理の拡充（WG3中村委員、奥本委員）

道路・河川等の公共土木施設については継続した維持管理作業が不可欠であり、今後の人口減少と高齢化の進行により、建設業の労働力低下が懸念されることから、将来を見据えた維持管理体制づくりを進める必要がある。

さらに幹事会でも「包括について県全体の建設業の動向を把握し、今後の方向性を示すことが必要」という意見も出ている。

↓
福島県公共土木施設維持管理業務に係る基本的な方向性（案）を策定
（資料編 P 4～）

福島県建設業産学官連携協議会 R7.3.21

県が考える包括的維持管理業務エリア図

《公共土木施設の管理単位である土木事務所毎にエリアを設定》



ロードマップ

R7	R8	R9	R10	R11	R12
方部毎に有資格者に対し基本的方向性を説明		意見・要望等聞き取りながら、継続して業務改善に努める			
建設事務所・土木事務所毎に、有資格者を対象に作業員の高齢化や担い手確保の状況等、地域の実情を聞き取りながら、包括的維持管理業務の導入時期を慎重に検討する。					